

教育実践学専修 言語文化研究室のご紹介 教員:辻 雄二

教員についての基本情報

教員名	辻 雄二 (TSUJI Yuji)
担当教科と分野	国語科 言語文化分野
研究分野	民俗学
担当授業	国語概説, 教育臨床研究 I・II, 教職実践研究・演習, 子どもの世界学びの世界, 小学校教育研究法 I・II, 卒業研究 I・II など
授業についての一言	国語概説では日本の昔話と漢字学習を担当しています。 学校教育専攻の基礎科目である子どもの世界学びの世界では教室における子どもの学びに注目します。 教育臨床研究では学校における子どもと教師の日常に注目した実践記録を読み解きます。



研究の内容

それぞれの土地が共有している「小さな記憶」を語る声に耳を傾け、そこに生きる人々の思いや体験の根元からほぐしていくことで、その土地固有の「貌」を自画像として描けるよう研究に取り組んでいます。その研究成果を踏まえ、自らを主語にして世界と関わり、自分の言葉で自分を語るができる生活者を育てていくことを目指しています。

そのために、歩くこと、見ること、聴くことを通して、他者を理解し繋がる活動を学校内外で展開しています。

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

① 国語科の学習についての研究

- ・表現の幅を広げる漢字学習についての一考察 -漢字テストの誤答分析から-
- ・沖縄の「伝統的な言語文化」の学びに関する一考察 -「しまくとぅば」の有用性と教材的価値を通して-
- ・斎藤隆介作品の教材としての価値に関する研究 -「モチモチの木」を中心として-

② 地域に根ざした言語文化についての研究

- ・地域演劇が包含する教育効果と醸成する地域アイデンティティ -現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動から-
 - ・儀間比呂志の描いた沖縄 -その生涯と作品を通して-
- 等々

研究のキーワード

言語文化, 地域, 歴史, 記憶と記録

研究室の様子

学生の皆さんの興味関心にそって研究テーマを設定し、研究計画にそって方法を検討し、それぞれの研究の進捗状況を発表しながら進めています。そのために、毎年共有テキストを設定し、特定のテーマについて解決すべき問題を発見する、すなわち不確定な問題において真理を探究していきます。そして、テーマに関する情報を収集し、なぜそれが問題なのかという根拠を探り、論理的に整理しながら進めていきます。このような学習を通して参加者全員が問題解決における学び方を身につけていきます。そのためにディスカッション(=対話)を大切に、一人一人が学びを実感できるよう努めています。

よって、研究室では「対話を通して教育をつくる」ことを目指し、そのために自分自身が未来をつくる主体として、対話

の相手と共に成長し続けることが大切だと考えています。そして、人との出会いは自分を振り返るチャンスでもあります。つながり続け、コミュニティの一員として話し合いながら、学びをギフトし合う関係を続けていくことは、より深い学びを生むことができるでしょう。